

大建協 奈良市で親子見学会 新総合医療センターなど訪問

大阪建設業協会(大建協) 奥村太加典(会長)は3日、奈良市内で恒例の親子現場見学会を開いた。小学生と保護者30組60人が参加し、奥村記念館で免震装置の仕組みなどを学んだ後、17年12月の完成に向けて急ピツ



地震&免震体験
(奥村記念館)

子で工事が進む新奈良県総合医療センター新築工事の現場を訪れ、休日の楽しいひとときを過ごした。

奥村記念館は、奥村組が創業100周年を機に07年4月に開館。憩いのスペースや観光インフォメーションセンター、奥村組100年の歴史や免震装置などの技術展示コーナーを設け、無料で開放している。参加者は基礎部に設置された免震装置をガラス越しに見学し、仕組みや役割を学んだほか、地震&免震体験コーナーでは阪神淡路大震災など、過去の地震波データを基に再現した地震の揺れと、免震装置を設けた場合の揺れの違いを体験した。

病院建設現場で高所作業車に乗車



この後、奈良市七条西町2丁目建設が進む新奈良県総合医療センター新築工事(施工|奥村組・村本建設・山上組)の現場へ。

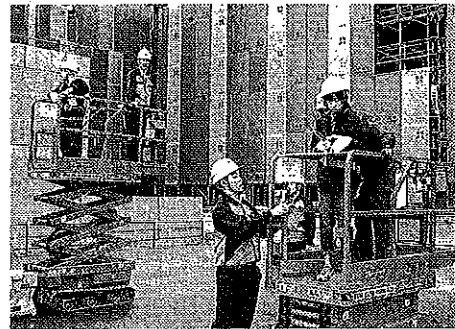
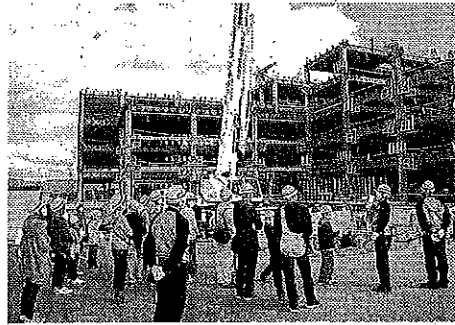
見学に先立ち、大建協広報委員の白石卓郎氏(鴻池組)が「普段入ることができない工事現場を存分に見てほしい。そして建設業の仕事に少しでも興味を持っていただき、将来の仕事に建設業が選ばれることを願っている」とあいさつした。

奈良県立病院機構の中川幸士理事が病院の概要、JV工事所の木村真也所長が工事内容を説明した後、現場を見学し、参加者は普段入れない工事現場のスケールの大きさに驚いていた様子だった。バックホウやクローラークレーン、高所作業車の乗車体験コーナーでは、子どもたちがオペレーターになりきって記念撮影を行うなど、初めての体験を楽しんでいた。

同センターは、教育研修棟・外来中央診療棟・病棟で構成する本館棟が地下1階地上7階建て(免震構造)、エネルギーセンター棟が地下1階地上1階建てで、総延べ床面積は約6万7500平方メートル(540床)。着工以来、順調に工事が進んでおり、現在の進捗率は約30%となっている。

新奈良医療Cでスケール実感

大建協、恒例の親子見学会

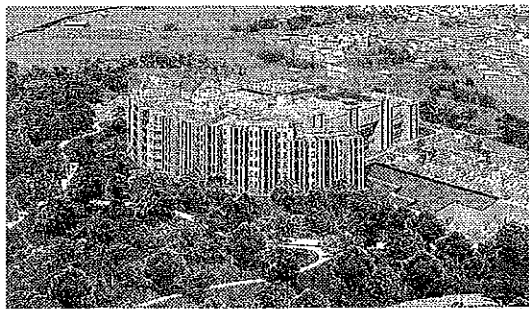


高所作業車に乗車

大阪建設業協会（大建協、奥村太加典会長）は3日、恒例の親子現場見学会を開いた。写真。建設業に対する関心と理解を深めてもらうと1995年から続くイベントで、今回は30組の親子60人を招待。奈良市内に建設中の新奈良県総合医療センター（施工：奥村組・村本建設・山上組JV）の現場などを訪れた。

設計＝梓 施工＝奥村組JV

表し同協会広報委員会の白石卓郎氏が、「普段入ることのできない建設現場を大いに見学してほしい。きょう参加した子どもたちがこの仕事に興味を持つきっかけとなり、将来の選択肢のひとつになればうれしい」と阪口泰一広報委員長のメッセージを披露した。発注者である奈良県立病院機構の中川幸士理事が病院建設の背景などについて説明。木村真也所長ら奥村組JV



新奈良県総合医療センターのイメージ

スタッフの案内で、現場見学会がスタートした。参加者は現場のスケールの大きさに驚いた様子で、真剣な表情で見入っていた。また子ども向けに高所作業車や、シヨベルカーの乗車体験コーナーが設けられ、親子で写真を撮る姿がちらちらで見られた。

見学会の質疑応答では「現場ではどれくらいの方が働いているか」「女性に向いている現場の仕事は」「事業費は」といった質問が次々と寄せられていた。この日は現場見学会に先立ち奈良市にある奥村記念館にも立ち寄り、地震・免震装置も体験した。

新奈良県総合医療センター新築工事の規模は、病棟が入る本館棟がS一部SRC造地下1階地上7階建て延べ約6万4000平方メートル。免震構造を採用している。このほかにエネルギーセンター棟も建設する。基本設計は梓設計・八千代エンジニヤリングJV、建築実施設計も梓設計が担当した。

木村所長によると、15年3月に着工した同工事の進捗率は約30%。作業は順調で11月下旬にも病棟部分が上棟する見通し。17年12月の完成を目指している。建設地は奈良市七条西町2。

親子
協学会
建設
現場
大現

新奈良県総合医療C見学

建設重機への乗車等体験

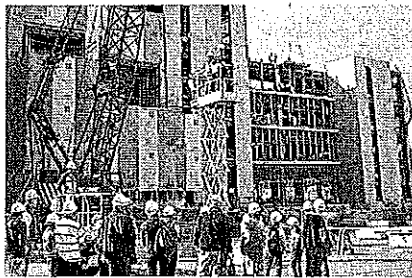
大阪建設業協会は3日、親子現場見学会を開き、30組60人の親子が参加した。奈良市内で建設

が進む新奈良県総合医療センター新築工事（施工：奥村組・村本建設・山上組JV）などの現場見

学を行い、楽しい休日を通じた。午前は奥村記念館を訪問。免震装置の設置状況



地震・免震体験装置を体験



高所作業車に乗車

午後からは、建設が進んでいる新奈良県総合医療センター新築工事の現場を

見学。木村真也所長が工事概要について説明した後、3班に分かれて、普段、なかなか見ることのできない建設現場を興味深く見学していた。また、参加者は高所作業車、建設重機への乗車体験をした。

新奈良県総合医療センターの建設地は、奈良市七条西町2。規模はS造一部SRC造地下1階地上7階建延約6万4000平方メートル。高さ24.9メートル。免震構造を採用。病床5400床。南側に病棟、中央に外来診療棟、北側に教育研修棟の配置。現在の工事進捗率は約30%。17年12月の完成予定。

建設進む「新奈良県総合医療C」など

恒例、大建協の親子現場見学会

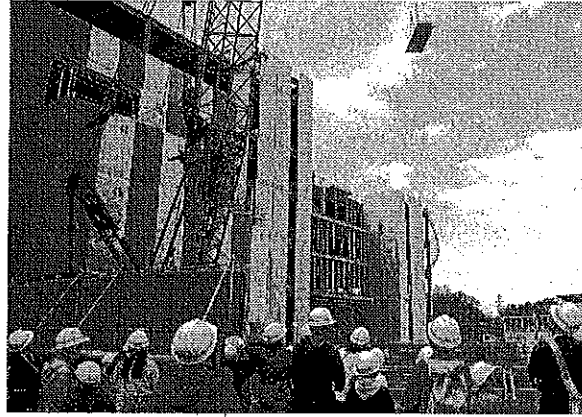
(一社)大阪建設業協会(奥村太加典社長)は三日、恒例となった「親子現場見学会」を開催した。三十組六十人が参加し、「奥村記念館」「新奈良県総合医療センター新築工事」建設現場など



小妻館長(左側中央)から免震技術についての説明を聞く参加者

奈良市内にある二つの施設を見て回り、建築技術や実際の現場などに直接触れることで建設業を体感した。

一行がまず向かったのは奥村記念館。奈良を発



PC版の吊り上げ作業を固唾を飲んで見守った

祥の地とする奥村組が二〇〇七年、創業百周年を記念して建設。同社の元営業所だった所で、ゆかりの深い奈良への感謝の気持ちが入められ、無料で開放されている。

近鉄奈良駅から徒歩十分、奈良公園に近接した観光スポットの一角にある。風致地区であるため、周辺の古都・奈良の景観

に溶け込むデザインを指向して設計。現在から過去を辿るイメージの動線を軸として建物が配置され、エントランスから憩いのスペース、空中廊下を経て展望フロアへと至る空間は、歩き疲れた人々の心を和ませる。洗練された設計コンセプトは高く評価され、二〇〇九年、「奈良県景観調和



高所作業車に試乗しその作業を体感した

者は免震技術の理解を深め、東日本大震災と同じ揺れを肌で感じていた。免震技術の知識を頭にに入れてから次に訪ねたのがその免震技術を導入して建設中の新奈良県総合医療センターの現場。奥村・村本・山上JVの施工で、進捗率は三〇％となっている。木村真也所長はじめ現場スタッフの

の様子を見て回った。バルコニーの床になるPC版(重さ3トン)の吊り上げ作業を固唾を飲んで見守り、高所作業車(高さ四・五メートル)やバックホーの運転席に乗ったり

と現場の気分を満喫。スケールの大きい建築物が造られていく過程を垣間見ながら、現場の楽しさや辛さを感じ取っていた様子だった。

見学会の工程を終え帰途につく車中のなかでは、「おもしろかった」「また行きたい」などの声が聞かれ、充実した秋の一日を、親子共有の思い出としてそれぞれの胸に刻み込んだ。

11月8日(火) 大阪工業